



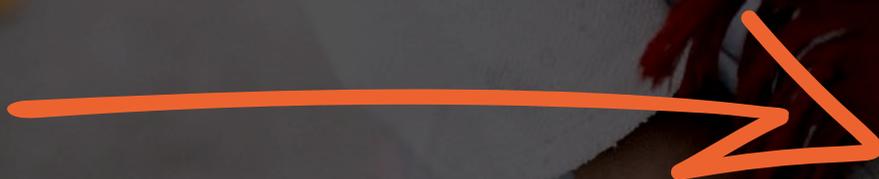
Until we are all equal



人生を

変えよう 2024

Bangladesh, エクアドル、
ウガンダにおける
プラン・インターナショナルの
プラン・スポンサーシップ・プログラムの
成果



目次

はじめに	1
チャイルドとそのコミュニティ： 世界規模の概要	5
対象国：バングラデシュ、エク アドル、ウガンダ	7
バングラデシュ、エクアドル、 ウガンダの調査結果	10
結論	31
提言	33
付録：調査方法	37



表紙写真：
祭りに参加する女の子、ポリバル州、エクアドル
©Plan International

早すぎる結婚に反対する21歳の女性、バングラデシュ
© Plan International



はじめに



家族の羊の世話を手伝う8歳の女の子、エクアドル

© Plan International

プラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップ・プログラムは、世界44カ国の子どもとコミュニティに恩恵をもたらしている。彼らの多くは、社会的・政治的不安定、貧困、食料不安、環境的圧力、そして多くの場合、これらの要因が組み合わさった影響を受けている場所に住んでいる

スポンサーシップ・プログラムは、子どもとそのコミュニティにとって有意義で持続的な変化を生むのを助ける。プラン・インターナショナルは、スポンサーシップ・プログラムが子どもとその周囲の人びとの生活にどう影響するかについて、継続的な学習に努めている。同プログラムは、子どもだけでなく、関係するコミュニティの皆に恩恵を与える。

本調査「人生を変えよう2024: ハングラデシュ、エクアドル、ウガンダにおけるプラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップ・プログラムの成果」は、この取り組みのひとつである。これは、プラン・インターナショナルが数年にわたり実施してきた、プラン・スポンサーシップ・スキームの効果に関する調査に基づいている¹。この報告書に要約されている調査結果は、プラン・インターナショナルや、スポンサーシップ開発活動に取り組む他の組織にとって、スポンサーシップ・プログラムの成果を高めるのに役立つものだろう。

開発活動としての スポンサーシップ

スポンサーシップは、コミュニティへの直接的かつ長期的な支援を提供する手段として、開発や人道支援の分野で広く用いられている。スポンサーシップには様々な形態がある。そのひとつがプラン・スポンサーシップであり、個々の子どもの幸福と成長を出発点として、コミュニティ全体により広範で前向きな変化を目指すものである。

持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取り組みとして、データの活用、プログラム計画策定における現地の状況の把握、そしてコミュニティ主導の取り組みの推進を通じた、スポンサーシップのプログラム改善が推進されている。これらの取り組みは、プラン・インターナショナルのプログラムの設計、実施、評価の方法を形成している。

1. この報告書の前身は、次の通りである: *Changing Lives. An Analysis of Plan International's Child Sponsorship Data (2019年)* である。以下、本報告書では「人生を変えよう2019年報告書」という。

プラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップ・スキーム

スポンサーシップは、プラン・インターナショナルが1937年に活動を開始して以来、子どもとそのコミュニティの生活向上を目指す活動の一環として行われてきた。プラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップは、子どもの生活とコミュニティに前向きな変化を起こすのに貢献する。プラン・スポンサーシップは、より多くの子どもが就学し、学校に通い続け、健康を享受し、より多くの出生が登録され、コミュニティの水、衛生、施設を改善することに関与している²。

プラン・インターナショナルは、プラン・スポンサーシップにコミュニティ・ベースの取り組みを採用している。チャイルドに選ばれた子どもやその家族と長期的な関係を築くことで、コミュニティの変化を現地のニーズに合わせ、将来にわたり耐久性があり持続可能なものにするのである。プラン・インターナショナルが活動するコミュニティの全ての子どもは、個別の支援者の有無にかかわらず、このプログラムの恩恵を受けている。このプログラムは、子どもやそのコミュニティを含む皆が、教育や保健施設などの必須サービスへ容易にアクセスできることを目指している。脆弱で疎外されたコミュニティは、女の子と同様に優先される。

女の子が成長できる環境を作ることが極めて重要だ。スポンサーシップの取り組みは、女子教育を促進するだけでなく、早期妊娠や性的虐待などのリスクに対する認識やそれらからの保護も促進する。プラン・インターナショナルは、ジェンダー平等と権利に関する話し合いに女の子と男の子の両方を参加させることで、全ての子どもが潜在能力を最大限に発揮する機会を確保できるよう、コミュニティを支援している。

スポンサーシップへの証拠に基づく取り組み

開発セクターで広く利用されているスキームであるにもかかわらず、スポンサーシップ・プログラムが子どもの生活やコミュニティに与える効果に関する調査は相対的に不足している。2018年、プラン・インターナショナルは、スポンサーシップが子どもの発達の成果やコミュニティの結束に与える影響について証拠を構築することを目的に、「人生を変えよう」と言う調査シリーズを開始した。

この調査に重点を置くのは、説明責任を果たし、証拠に基づき、子どもやコミュニティとの活動を継続的に改善するという姿勢である。従って、プラン・インターナショナルは、「人生を変えよう」シリーズの各主要段階において、学んだ教訓を棚卸しし、それらを実施する最善の方法を探ってきた。今回の調査は、「人生を変えよう。Analysis of Plan International's Child Sponsorship Data」(2019年)報告書で提示された提言に基づいている。そこでの提言に促され、プラン・インターナショナルは、スポンサーシップの効果に関する調査活動を洗練させ、その結果、今回報告された調査がされた。

人生を変えよう 2024: バングラデシュ、エクアドル、ウガンダにおけるプラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップ・プログラムの成果

この調査は、先行調査の後続として重要である一方、プラン・インターナショナルがこれまで行ってきたスポンサーシップの成果の評価方法に対して、重要かつ革新的な変化を与えるものでもある³。

この変更は、本調査のためのデータ収集方法に関するものである。以前の「人生を変えよう」調査のように、主に公的データ源やプラン・インターナショナルのスポンサーシップ・データベースに頼るのではなく、本調査のために特別に一次データを収集した。本調査では、2種類の一次データを収集した。

01 最初に、プラン・インターナショナルのプログラム実施コミュニティとそうでないコミュニティでデータを収集した。これにより、スポンサーシップ・プログラムを実施している地域と実施していない地域の子どもの違い(教育や健康など)が比較できる。

02 次に、プラン・インターナショナルのプログラム実施コミュニティで、チャイルドである子どもとそうでない子どもからデータを収集した。これにより、同じコミュニティ内の子どものであっても、支援を受けているか否かで生じる潜在的な差異に焦点を当てることができる。

2. 詳細は本報告書6ページ「世界規模の概要」を参照。また、「人生を変えよう 2019年報告書」も参照のこと。
3. 本調査の調査方法については、本報告書の付録を参照のこと。

全般的に、この調査方法は、これまでの調査のように平均的な関連性に頼るのではなく、各国内の多様な違いを反映した国レベルの分析を提供するものである。また、各国それぞれの状況に合わせたプログラムを作成するための幅を広げるものでもある。

「人生を変えよう」の先行調査と同様、この調査はオーストラリアのメルボルンにあるRMIT大学⁴によって実施された。今回の調査の目的は、プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・スキームが、関係する子どもやコミュニティの生活にどのような影響を与えているか、一次データを用いて国レベルで分析し、証拠を構築することである。

一次データ収集のために、バングラデシュ、エクアドル、ウガンダの3カ国が選ばれた。プラン・インターナショナルは、これらの国々で数十年にわたる長期的なコミュニティ・プログラムを実施してきた。

一次データ分析から得られた主な調査結果と提言をここに示す。また、外部の情報源やプラン・インターナショナルのスポンサーシップ・データベースからの既存の二次データも活用した。いくつかの状況をより明解にさせるため、それらの他の要素からの分析結果もここに含まれている。

一次データの調査結果は、**思春期の若者(12~17歳)の結果**に焦点を当てている。先行調査では、思春期は肯定的な発達の結果が変わり始める重要な転換点であることが判明している⁵。倫理的な配慮から、調査テーマのいくつかを議論するのに最も適切な最低年齢層であるとも考えられた。

調査結果で使用された用語と概念に関する注記

調査結果では、子どもやコミュニティについて特定の用語を用いて説明している。

- 「元チャイルド」とは、子どもや思春期の若者の頃にチャイルドだったユースのことである。
- 「チャイルドの子ども/思春期の若者」は、プラン・インターナショナルが監督する、手紙でのやり取りが可能な支援者を持ち、プラン・インターナショナルがスポンサーシップ・プログラムを実施しているコミュニティに住んでいる。
- 「非チャイルドの子ども/思春期の若者」は、支援者を持たないが、プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・プログラムがあるコミュニティに住んでいる。調査が、支援者を持つこと、支援者とやり取りすることの効果を調べようとしたため、このような区別をしている。
- 「支援を受けた子ども/思春期の若者」とは、プラン・インターナショナルがスポンサーシップ・プログラムを実施しているコミュニティ内の、チャイルドの子どもと非チャイルドの子どもの両方を指す場合がある。
- 「スポンサーシップのコミュニケーション」とは、主に子ども/思春期の若者と支援者の間で交わされる手紙のやり取りである。
- 「スポンサーシップ実施地」とは、プラン・インターナショナルのスポンサーシップ関連プログラムおよびプロジェクトが実施されている場所を指す。プラン・インターナショナルが活動していない場所は、調査結果では「非実施地」と記載した。

プラン・インターナショナルのスポンサーシップ活動はどう行われているか

スポンサーシップ・コミュニティに住む子どもとその家族は、プログラムの恩恵を受ける。コミュニティ・リーダーは、チャイルドとなる子どもを推薦する。その子どもたちは、現地でプラン・インターナショナルのプログラムの「大使」となれる。子どもは通常、18歳までチャイルドとなる。支援者とプラン・インターナショナルとの交流を通じて、彼らとそのコミュニティは、プロジェクト、コミュニケーション、開発介入のパッケージを利用できる。プラン・インターナショナルの職員が支援を受けた子どもを訪問し、子どもやその家族の幸福について話し合う。チャイルドの子どもは、教育奨学金を受け取ったり、支援者と手紙を交換したり、子どもクラブなどの活動に参加したりすることもある。この取り組みは、自立とエンパワーメントを重視している。その中心となるのが教育であり、女の子と男の子の保護であり、学校教育への平等なアクセスと、自己決定した未来のための機会の確保である。

4. ロイヤル・メルボルン工科大学。

5. Plan International (2019) [Changing Lives. An Analysis of Plan International's Child Sponsorship Data.](#)

チャイルドと そのコミュニティ:

世界規模 の概要



難民キャンプのECDセンターでおかゆを
食べる子どもたち、ウガンダ

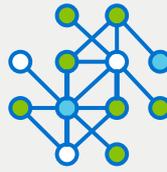
© Plan International

数字で見るプラン・インターナショナルのスポンサーシップ・スキーム



プラン・インターナショナルは、チャイルドの子ども全員とスポンサーシップ開始時に面談を行い、その後は毎年面談を行う

彼らのデータは中央管理システムに保存され、本人や家族の匿名性のためにコード化される



1,660万件

の観察記録

がプラン・インターナショナルのスポンサーシップ活動の膨大なデータベースとなった

このデータベースは、調査のためにスポンサーシップの「世界規模の概要」を作成するための情報源となった

主要データ⁶

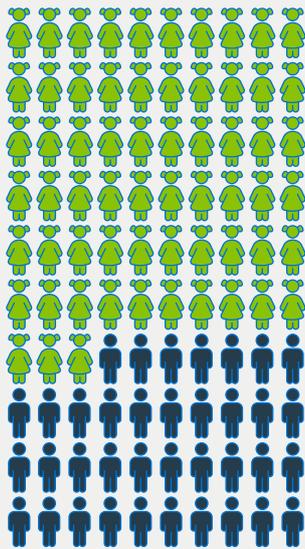
1,257,063人

の0~18歳の子どもが50カ国でチャイルドになっている



1%^弱 (9,705人)

の子どもが障害を持つ

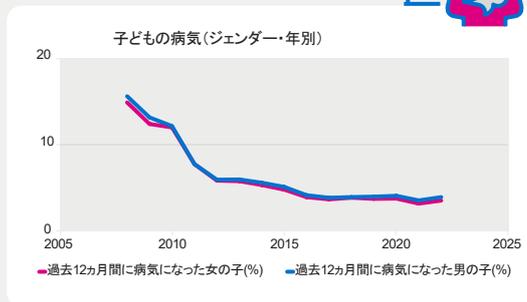


63%

が女の子

3.35% (40,365人)

の子どもが、過去12ヶ月間に深刻な健康問題を抱えていた



94%

が定期的に学校に通っている



66%

が上質の飲料水を手可能



61%

が改善された衛生設備を利用可能



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)データ チャイルドの子どもについては、パンデミックによる出席率や健康状態の変化は概して大きくはなかった。だが、国レベルの報告にはばらつきがあり、COVID-19によるものではない可能性がある。

ギニア、ミャンマー

パンデミック後、女の子の出席率は男の子より高くなった。

バングラデシュ、フィリピン

出席率は女の子より男の子の方が高かった。

ルワンダ

パンデミック後、中等学校での出席率は50%から65%に上昇した。

タイ

中等学校での出席率は75%から65%に低下した。

ニジェール

パンデミック後、体調不良と報告があったチャイルドの子どもの割合が7%減少した。

マラウイ

パンデミック後、体調不良と報告があったチャイルドの子どもの割合が10%増加した。

6. ここに掲載されているデータは、入手の安定性を考慮し、全て2021年以降のものである。2023年時点のチャイルドの子どもの総数は130万人である。上記の他の指標に関する最新のデータは入手不可である。

対象国:

**バングラデシュ、
エクアドル、
ウガンダ**



6歳の息子に絵本を読み聞かせる母親、バングラデシュ
© Plan International

本調査では、プラン・スポンサーシップの成果について深い洞察を得るため、3カ国に焦点を当てた。バングラデシュ、エクアドル、ウガンダが選ばれたのは、調査のための一定の選定要件を満たすためである⁷。これらの国は、アジア、南アメリカ、アフリカという異なる大陸にまたがり、地理、所得水準、宗教、ジェンダー平等の点で異なる。

バングラデシュ

イスラム教徒が大半を占めるバングラデシュは、東南アジアに位置し、人口は1億7,100万人超（2022年）である⁸。最も経済成長が著しい国の一つであるバングラデシュは、中低所得国とされる。貧困レベルはここ数十年で劇的に改善され、その他の人間開発の成果も伸びている。しかし、バングラデシュは気候変動、特に洪水に対して非常に脆弱である⁹。

調査は、首都ダッカの3つの都市スラムコミュニティで行われた。プラン・インターナショナルは、そのうちの2カ所で2008年からプログラムを実施しており、3カ所目はプログラムを実施していない非実施地である。実施地の特徴は、人口密度の高い生活、限られた排水設備と定期的な洪水、複数家族共有の衛生設備、屋外での薪やガスを用いた調理がある。職業は、工場労働者、運転手、労働者、料理人、衣服労働者などである。

プラン・インターナショナルは1992年からバングラデシュで活動している

- 重要課題は、ジェンダー平等と包摂の改善。
- 中核をなす支援活動：早すぎる結婚の防止、教育、性と生殖に関する健康と権利、子どもの保護、女の子の経済的エンパワーメント。
- 活動地域：ダッカを含む北部、南部、中部の準管区（ウパジラ）。

エクアドル

エクアドルは南アメリカの北西部に位置する多民族国家である。先住民、メスティーソ、白人、黒人がアンデス山脈、アマゾンのジャングル、太平洋沿岸に住んでいる。過去50年間に数度の政変や経済危機があり、慢性的な政治的・経済的不安定を引き起こしている。人口の4分の1が2019年には貧困ラインより低い生活をしていた¹⁰。COVID-19パンデミックは、既に深刻だった不況を悪化させ、多くの場所、特に都市部で治安を悪化させた¹¹。

治安上の懸念から、調査のためのデータを安全に収集できるのは地方だけだった。比較的貧しいシエラ地方中央部の2つの地域が選ばれた。訪問した村の住民は先住民が多く、生計は主に農業に基盤を置く。家計は、地方都市の市場で売る工芸品を生産して収入を補っている。

プラン・インターナショナルは1962年からエクアドルで活動している

- 様々な開発/援助スキームが過去60年にわたり採用されてきた。
- プラン・スポンサーシップとコミュニティ開発に対する現在の取り組み：総合的で、子どもを中心に据えた取り組み-教師、コミュニティ・リーダー、保護者と協力し、子どもがその地域でリーダーシップを発揮するよう奨励。
- コミュニティレベルのプロジェクトには、10代の妊娠を防止するゾーン、安全なゾーン、平等を活性化する活動などがあり、それぞれ思春期の妊娠防止、子どもの保護とリスク回避、リーダーシップに取り組んでいる。

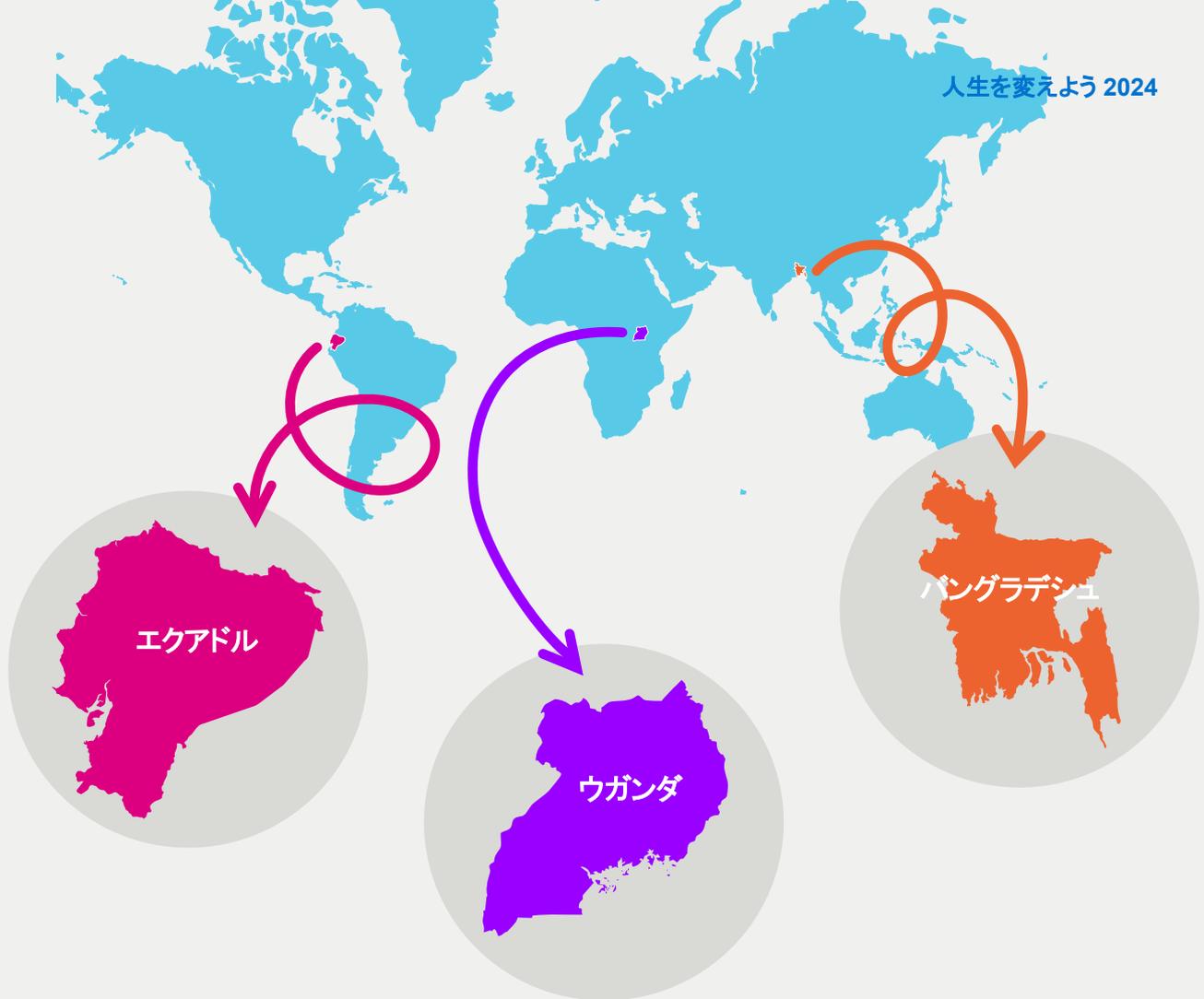
7. プラン・インターナショナルの3カ国における活動の詳細は、各国事務所からRMIT調査チームに提供された。国の選定要件の一覧は付録を参照のこと。

8. World Bank data site (2022) Bangladesh, <https://data.worldbank.org/country/BD> [accessed 15 February 2024]

9. World Bank (2022), World Development Indicators Online Database, [accessed 21 March 2023]; World Bank (2022), 'The World Bank in Bangladesh', <https://www.worldbank.org/en/country/bangladesh/overview> [accessed 28 March 2023]

10. Borgen Project (2020), '5 facts about poverty in Ecuador', <https://borgenproject.org/poverty-in-ecuador/> [accessed 1 November 2022]

11. World Bank (2022), 'The World Bank in Ecuador', <https://www.worldbank.org/en/country/ecuador/overview> [accessed 3 November 2022]; El Pais (2022), 'La inseguridad en Ecuador encierra en casa a los ciudadanos y saca a los militares a las calles', <https://elpais.com/internacional/2022-02-08/la-inseguridad-en-ecuador-encierra-en-casa-a-los-ciudadanos-y-saca-a-los-militares-a-las-calles.html> [accessed 3 October 2022]



ウガンダ

東アフリカの内陸国であるウガンダは、北部のニロト族と南部のバントゥー族という2つの主要民族から構成される、極めて多様性に富む国である。アフリカで最も多くの難民を受け入れており、総人口(2022年)4,700万人のうち、150万人が難民である¹²。ウガンダの経済は農業が中心で、低所得国に分類されている¹³。洪水や長引く干ばつなど、異常気象に見舞われている¹⁴。ウガンダは農業に依存しているため、気候変動の影響は深刻である。

調査地は、比較のために都市部と地方が混在する場所を選んだ。いずれもウガンダ東部のカムリ地区である。この地区は多民族で、漁業、農業、採石業、小売業を中心に生計を立てている。カムリ地区の中でも、社会経済的特性が似ている3つの小郡が選ばれた。プラン・インターナショナルは、そのうちの2つでは2000年以来活動しているが、比較対象の3番目では活動していない。

プラン・インターナショナルは1992年からウガンダで活動している

- ・ ゲリラ戦の影響を受けた子どものニーズに応じて活動を開始。
- ・ 現在の優先課題と重点事項: 能力開発とエンパワメント、幼児ケアと初等教育、妊産婦・新生児・子どもの健康、ユースの性と生殖に関する健康(SRH)。
- ・ 災害と難民の流入に対応。

12. World Bank data site (2022) Uganda, <https://data.worldbank.org/country/uganda> [accessed 15 February 2024]

13. World Bank (2023), 'The World Bank in Uganda', <https://www.worldbank.org/en/country/uganda/overview> [accessed 15 February 2024]

14. World Bank (2023), 'The World Bank in Uganda', <https://www.worldbank.org/en/country/uganda/overview> [accessed 15 February 2024]

バングラデシュ、 エクアドル、 ウガンダの 調査結果



学校で友だちと遊ぶのを楽しんでいる9歳の女の子、エクアドル

© Plan International

本セクションでは、スポンサーシップが3カ国の子どもとそのコミュニティに与える影響について、一次データ分析から得られた知見を要約する。

調査結果を理解する

これらの調査結果は、プラン・インターナショナルがチャイルドの子どもやその家族から得た、教育、保健、エンパワーメント、子どもの保護といった、子どもにとっての主な開発成果の項目のデータに従って整理されている。コミュニティに関する調査結果は、その地での信頼と結束の度合い、および貧困の程度を調査したものである。

各指標のセクションの冒頭には、結果に関する主要な一般的所見が記載されている。続いて、より詳細な調査結果を示す。各国に対し、2種類の調査ベースの分析が行われた。

- (i) プラン・インターナショナルのコミュニティ(「スポンサーシップ実施地」)と、そうでない近隣のコミュニティ(「非実施地」)を比較する「**比較地分析**」、
- (ii) プラン・インターナショナルのコミュニティ内で、スポンサーシップに関連する活動の様々な側面と、思春期の若者の様々な集団に対する開発の成果を検討する「**深掘り分析**」。

深掘り分析の結果、様々なテーマが浮かび上がってきた。これらのテーマは、読みやすくするため、さまざまな小見出しで示されている。それらは、インタビューによる調査結果で補完されている。インタビューは、調査ベースの分析結果の背後にある微妙な違いを探ったり、時にはそれと対照的な結果を導き出したりするのに役立つ。インタビュー対象者の実名は、身元を保護するために使用していない¹⁵。



難民キャンプにある子ども向けのスペースで遊ぶ子どもたち、ウガンダ北部

© Plan International

15. 要約された調査結果は、わかりやすくするため、専門的な記述を避けている。比較分析と深掘り分析は量的なもので、思春期の若者、保護者、コミュニティリーダーを対象とした調査に基づく。インタビューは質的なもので、コミュニティリーダー、保護者、チャイルド/非チャイルドの思春期の若者、以前チャイルドだった思春期の若者(「元チャイルド」)に行った。詳細については、調査方法について付録を参照のこと。

全体的な傾向



教育

大半の開発団体は、質の高い教育へのアクセスを提供し、子どもの教育への参加を優先している。プラン・インターナショナルは、コミュニティ中心の長期的な取り組みを行いながら、教育プログラムの中でジェンダー平等と子どもの幸福のための総合的な支援を重視している点が特徴的である。

主な調査結果

- 就学率と出席率は、バングラデシュとウガンダのスポンサーシップ実施地では低いところもあるが、どの実施地でも概して高い。
- プラン・インターナショナルのプログラムに参加し、支援者の手紙を受け取ることは、高い就学率と関連している。
- 間接的な経済支援は、思春期の若者の就学を支援する。
- スポンサーシップは、就学率のジェンダー格差を縮める上で重要な役割を果たしうる。

比較地分析

概ね高率-バングラデシュは低い

スポンサーシップ実施地と非実施地を比較するため、3カ国とも思春期の若者の就学率と出席率で教育成果が測定された。3カ国とも、それらの率は概して高かった。

ウガンダのデータによると、思春期の若者の就学率は、非実施地が100%であったのに対し、実施地では94.6%と著しく低かった。しかし、出席率はスポンサーシップ実施地の方が高かった。ウガンダの普遍的初等教育政策は、6～13歳の全てのウガンダの子どもに初等教育を義務づけ、無償で提供するというもので、この結果が影響している可能性がある。エクアドルについては、報告すべき教育指標に違いはなかった。



クリケットになりたいという大きな夢を持つ幼い女の子、バングラデシュ

© Plan International

バングラデシュでは、学校への就学率は、非実施地では79%であったのに対し、スポンサーシップ実施地では69%であった。就学率は、非実施地では74%であったのに対し、実施地では61%であった。これらの結果は、非実施地よりも実施地の方が多面的貧困が深刻であることを反映していると思われる。非実施地では29%であったのに対し、実施地では約48%の世帯が貧困であった。

「プランのチャイルドになれなかった人を知っています。彼らは貧困のために勉強を続けませんでした。彼らの生活に変化はありません。私は学校に通うことができましたが、彼らは私のように機会を得られなかったため、それができなかったのです」

Kazi, 男性、17歳、ダッカ・マッチコロニー、バングラデシュ、元チャイルド

深掘り分析

スポンサーシップと支援者からの手紙が就学率を高める

スポンサーシップ実施地に関する分析では、個別支援者を持つこと、彼らから手紙を受け取ることが、就学率の向上や規則的な出席という教育的成果の向上と関連していることが示された。

バングラデシュのスポンサーシップ実施地では、(支援者がいる)チャイルドの思春期の若者は、(支援者がいない)非チャイルドの思春期の若者に比べて、学校に在籍している可能性が10%高く、規則的に出席している可能性が14%高かった。これには様々な理由が考えられる。チャイルドの思春期の若者は、プラン・インターナショナルや保護者、あるいは支援者から学校に通うのを奨励されている可能性がある。その結果、自身が何をすべきかという意識が高まったのかもしれない。更に、チャイルドの思春期の若者の世帯の中には、COVID-19パンデミックの影響に対処するために間接的な経済的支援を受け、教育に対する経済的障壁を取り除いた事例もある。

チャイルドの思春期の若者 バングラデシュ

学校に規則的に通う可能性が **14%** 高い



バングラデシュの調査結果は、スポンサーシップがよい教育成果に結びつくことを示している:

- プラン・インターナショナルのプログラムに1つでも参加している思春期の若者は、就学している可能性が9.5%高い。
- また、学校に規則的に通う割合も15%高い。
- 支援者から手紙を受け取った思春期の若者は、規則的に学校に通う可能性が17%高い。

同様の傾向がウガンダでも見られた。プラン・インターナショナルのプログラムに参加したチャイルドの思春期の若者は、そうでない思春期の若者に比べ、学校に在籍している可能性が6.9%高く、規則的に登校している可能性が7%高かった。支援者から手紙を受け取った思春期の若者は、学校に就学する可能性が5.8%高かったが、定期的な登校には影響が見られなかった。

支援者からの手紙を受け取った バングラデシュの思春期の若者

規則的に学校に通う可能性が **17%** 高い



間接的な資金援助は、子どもを学校に通わせ続けるのを助ける

また、プラン・インターナショナルは、食費や燃料費の支払い、学費の支払いといった形で、間接的な資金援助を提供する場合もある。この支援により、チャイルドの子どもや家族は、他の費用を相殺し、他の基本的な費用に充てることができた。学費が払えないことは、家族にとって教育への大きな障壁である。

「もしプランのプログラムに参加していなかったら、私の人生は違っていたでしょう、私は学校に行けなかったのですから。父には私や兄弟の学費を払うお金がありませんでした。プランが私たちのコミュニティに来てくれなかったら、今の私はなかったでしょう」

Dembe、女性、22歳、バラウォリ村、ウガンダ、元チャイルド

このような間接的支援は、思春期の若者を学校に通わせ続けるのに有効であることが、3カ国全ての質的調査結果で示された。これは思春期の若者の生活を変容させる効果があった。

「学費の支払いが一番気になります。それは、私の教育に必要な不可欠なものだからです。プラン・インターナショナルが既に支払ってくれたので、学費のために学校を離れることはありませんでした。私たちが勉強している間、何人かの子どもは学校から帰らなければなりません。彼らは何日も、時には何週間も学校を休んでいました...プランがいなかったら、私は小学校の低学年でやめていたでしょう」

Joana、女性、16歳、プワロ、ウガンダ、元チャイルド



学校で笑顔を見せる健康クラブのメンバー、ウガンダ

© Plan International

チャイルドの子どもの家族にも恩恵があり、援助によって収入を他のニーズに充てることができる。

だが、バングラデシュやウガンダのインタビュー回答者によれば、家計はそれらの財政援助に依存するようになる可能性がある。援助が終了すると、思春期の若者は教育を受け続けられなくなるかもしれない。支援が終了するのは、COVID-19パンデミックのような危機の際に支援を提供するために設けられているためであったり、個別のスポンサーシップや関連する福利が終了するためであったりする。

「プランの経済的な支援によって、家庭での生活は変わりました」

Achilles、男性、22歳、ウガンダ、元チャイルド

「スポンサーシップが終了した後、私は勉強を続ける機会を失いました。残念です。教育は、家族とまともな生活を送るために重要です。私は十分な勉強をする機会を得ましたが、家の貧しさのために十分な勉強をすることができませんでした。不運でした。当時13歳でした。私が追加収入で父を助けるべきだということとは理解できました」

Omar、男性、18歳、ダッカ・マッチコロニー、バングラデシュ、元チャイルド



プロジェクト・コミュニティの母子、エクアドル

©Plan International

エクアドルのいくつかのスポンサーシップ実施地では、チャイルドの思春期の若者が受ける支援は、非チャイルドの思春期の若者に対し、機会において明らかに開きを作り出した。

「ええ、子どもたちは勉強したかったのですが...私たちは経済的に余裕がなく、勉強させることができませんでした。中途退学後、彼らは働きに出て、何人かは既に結婚しています。他にすることがないので、まだ働いている幼い娘もいます」

Tiago、男性、50歳、トランカ・サンルイス共同体、エクアドル、非チャイルドの思春期の若者の保護者

万人のための教育：ジェンダーと障害

バングラデシュのスポンサーシップ実施地では、深掘り分析によると、思春期の女の子の学習状況は男の子よりも良好で、就学率は12%高く、出席率も14%高い。

スポンサーシップ活動は、特に女の子の就学に貢献している。プラン・インターナショナルのプログラムに参加している女の子は、男の子より18%多く就学していた。支援者の手紙を受け取った女の子は、男の子よりも15%多く就学していた。このことは、プラン・バングラデシュの、女の子の開発成果の向上に注力したことが成果を上げていることを示唆している可能性がある。



バングラデシュのスポンサーシップ実施地で、学校に通う思春期の女の子が

14%増加

ウガンダでは、同じ量的分析による就学率と出席率にジェンダー差は見られなかった。これは、スポンサーシップ実施地での介入努力がジェンダー格差の縮小に役立っているためかもしれない。しかし、支援者の手紙を受け取った女の子は、その手紙を受け取った男の子よりも、定期的に学校に通う可能性が13%低いことが判明した。

エクアドルのスポンサーシップ実施地では、先住民の女の子の

67%

が中等学校に通っている



叔母の池の水汲みを手伝う幼い女の子、
 バングラデシュ
 © Plan International

エクアドルでは、同じ分析でジェンダー差は見られなかった。だが、二次データから、エクアドルの先住民の思春期の女の子に関する興味深い発見があった。それは、同国の他の場所の先住民の女の子よりも、スポンサーシップ実施地の先住民の女の子（特に年上の女の子）の方が、学校に行く可能性が高いということだ。先住民の女の子の中等学校への平均出席率を比較すると、スポンサーシップ実施地では67%に達するのに対し、非実施地では61%であった。

障害に関して、バングラデシュでは、脆弱な子どもの教育への参加を促すプログラムの取り組みが機能していることが、調査結果から示唆された。障害があるとする思春期の若者は、障害のない思春期の若者よりも、学校に入学する可能性が最低10%高く、定期的に出席する可能性も最低19%高い。同様の傾向（最低でも2.2%）が、就学率に関して、わずかだがウガンダでも見られた。エクアドルでは、障害と教育に関する統計的に有意な差は見られなかった。



「障害のある思春期の若者」

バングラデシュのスポンサーシップ実施地では、**19%** 就学率が上昇

教育への投資：より広範な恩恵をもたらす

エクアドルのコミュニティ・リーダーによると、プラン・インターナショナルの教育への投資と教育スポンサーシップは、コミュニティの就学と教育への関心を高めたという。インタビューでコミュニティ・リーダーたちは、チャイルドの思春期の若者が、以前よりも真剣に教育や学校に打ち込むようになったことを示唆した。

エクアドルでは、学校を拠点とした支援だけでなく、平等な権利、ジェンダー平等、SRH、障害、保健、栄養、衛生、社会的結束などの社会問題に関するプロジェクトやセミナーも行われてきた。また、これらのコミュニティで行われた他のセミナーでは、チャイルドの子どもに収入創出スキルを教えた。こうしたプロジェクトを通じて思春期の若者が学んだことは、家族に波及効果をもたらし、最終的にはコミュニティに恩恵をもたらす。

「以前は、プランが私に与えてくれた多くの知識を持っていませんでした。ワークショップで思春期を理解する多くの機会、自分の変化について...プランがいなかったら、私は何も知らなかったでしょう。女の子の権利や性について知りませんでした。それらのことは、いろいろなことを学び、自分が何を感じ、何をしたいのかを知る上で、とても役に立ったわ...。プランのワークショップで学んだことを、家族のほとんどの人に話す機会があり、兄弟や父、母にも役に立ったことがあります」

Maria, 女性、18歳、ピンバロ・コミュニティ、エクアドル、チャイルドの思春期の若者

教育上の成果として、元チャイルドの思春期の若者は、チャイルドでなかった子どもよりも就職の見込みがあると述べている。

「以前は、コミュニティに今のような教育への関心はなかったから、私たちにとってはいいことでした。ユースの教育や学習に対する態度が変わったんです...」

Mauricio, 男性、26歳、プル・キシュアル・コミュニティ、エクアドル、コミュニティ・リーダー

「この子どもたちは支援を受けられず、遅れをとっています。現在、どんな仕事でもチャイルドの子どもが優先されます。だから、私たちの方が仕事を獲得するのが簡単なのです」

Farah, 女性、18歳、ダッカ・マッチコロニー、バングラデシュ、元チャイルド



健康

プラン・インターナショナルは、子どもの権利とジェンダー平等を推進するという、広範な目標に、子ども、特に女の子の健康を改善する施策を組み合わせている。SRH、栄養、保健は、重要なプログラム分野とされ、ユースの参加、コミュニティのエンパワーメント、健康と権利の統合、疎外された人びとに焦点をあてること、これら全てが、健康への取り組みを形成する上で有意義である。

主な調査結果

- 思春期の若者は、どの場所でも概ね「健康である」と回答した。
- 子どもの発病率が高いウガンダでは、スポンサーシップ実施地の思春期の若者や支援者から手紙を受け取った思春期の若者の健康状態が良好であると報告されている。
- プラン・インターナショナルの介入は、女の子の健康状態を改善し、一次医療をより利用しやすくし、コミュニティが病気を予防できるよう支援している。

比較地分析

大半の思春期の若者は「健康である」と回答

3カ国の思春期の若者は、通常健康状態を「非常に悪い」から「非常に良い」までの範囲で評価するよう求められた¹⁶。嬉しいことに、比較地分析では、大半の場所で思春期の若者の健康状態が概して良好であることが明らかになった。

ウガンダは、スポンサーシップ実施地と非実施地の間で差が見られた唯一の国であった。スポンサーシップ実施地の思春期の若者は、非実施地の思春期の若者より19%多く健康状態がよいと報告した。これは、プラン・インターナショナルの健康への介入が効果的であった可能性が高いことを示唆している。

ウガンダのスポンサーシップ実施地の思春期の若者

19% が「健康状態がよい」と回答



バングラデシュとエクアドルでは、地域ごとの健康状態の差異は認められない。バングラデシュでは、調査対象となった思春期の若者の自己申告による健康状態が全体的に良好であったことが、その理由のひとつと考えられる。彼らのうち77%超が自身の健康状態を「良好」または「非常に良好」と報告し、「悪い」または「非常に悪い」と報告したのはわずか3%だった。



バングラデシュで調査対象となった思春期の若者

77% が「健康である」と回答

これを整理するために、二次データ源に見られる3カ国のチャイルドの子どもの病気の傾向を見てみたい¹⁷。バングラデシュとエクアドルでは、子どもの病気は近年ゼロに近く、2008年以降減少傾向にある。しかし、ウガンダでは病気の割合が高く、同じ期間に10～33%の間で変動している。これと比較すると、過去12ヶ月間に深刻な病気にかかったと報告したのは、世界の全チャイルドの子どものわずか3.4%であった。

深掘り分析

支援者の手紙が健康に影響

スポンサーシップ実施地では、3カ国のチャイルドの思春期の若者と非チャイルドの思春期の若者を比較しても、プラン・インターナショナルのプログラムへの参加の有無で比較しても、健康状態に差は見られなかった。違いが見られたのは、支援者からの手紙の受領に関してであった。

支援者から手紙を受け取ったウガンダの思春期の若者は、自己申告の健康状態がよかった。自己報告による健康度は、5段階評価で、支援者からの手紙を受け取っている人の方が、受け取っていない人よりも0.58ポイント高かった。



16. 量的分析の一環として、思春期の若者に通常の健康状態を「非常に悪い」から「非常に良い」まで評定するよう求めた。回答は5段階評価で調整された。質的インタビューでは、参加者に最後に体調を崩したとき、そのときの様々な状況について説明してもらった。

17. 二次データ源には、プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・データベースが含まれ、3カ国の主な開発指標と世界的な傾向について分析した。

エクアドルではジェンダー差が現れた。手紙を受け取った女の子は、手紙を受け取った男の子に比べて、自己申告の健康状態が有意に悪く、0.2ポイント低かった。この結果は、他の集団と比較して、健康状態があまりよくない女の子の方が、コミュニケーションをとる可能性が高いか、チャイルドになる可能性が高いことを反映しているのかもしれない。バングラデシュでは、支援者の手紙を受け取ることによる差は見られず、バングラデシュとウガンダではジェンダー差は見られなかった。

障害のある思春期の若者は、3カ国全てで健康状態が良くないと回答した。エクアドルでは約10%ポイント、ウガンダでは約25%ポイント、バングラデシュでは約77%ポイント、障害のある子どもは、障害のない子どもに比べて健康状態がよいと答える割合が低かった。

女の子の健康: 月経衛生と栄養

ウガンダとバングラデシュでの質的インタビューでは、スポンサーシップ・プログラムが女の子の健康状態改善に貢献していることが語られた。月経衛生管理については、ウガンダとバングラデシュで元チャイルドの思春期の女の子が言及した。



息子が手を洗うのを手伝う若い母親
© Plan International

コミュニティの健康: 医療アクセスと衛生

3カ国全てで、コミュニティはプラン・インターナショナル 介入による、健康に重要なインフラの改善や設置の恩恵を受けている。インタビュー回答者は、これらの介入後、一次医療施設にアクセス可能になり、信頼できる医薬品が供給され、定期検診を受けられるようになったと述べている。

エクアドルとウガンダでは、改善された衛生設備、トイレ施設、安全な飲料水への投資が、特に疾病の発生を抑制・減少させるとして、コミュニティの健康状態向上に寄与するものとして評価された。

「私たちのコミュニティのスポンサーシップによって、地元の材料で生理用ナプキンを作るなど、適切な月経衛生を実践する方法を教えてくださいました」

Joana, 女性, 16歳, プワロ, ウガンダ, 元チャイルド

女の子は栄養についても学び、この知識の習得が長期的に有益であることを述べた。

「プランによるトイレ建設への啓蒙と手洗いの教育により、病気の発生は減少しました。各家庭にトイレがあるので、野外排泄はなくなりました。皆が自分のトイレを持っているので、隣人と共有することはありません」

Stanley, 男性, 36歳, カムリ地区, ウガンダ, チャイルドの思春期の若者の保護者

「栄養価の高い食べ物の大切さや、生理中のケアの仕方、そして、布は不衛生なのでナプキンを使うように教えてくださいました。また、どれが高タンパク質食品かも学びました。今もこの知識を維持しています」

Anika, 女性, 20歳, ジュレイン・レイルウェイ・コロニー, バングラデシュ, 元チャイルド

「プランが来る前は、コミュニティには浴室がなかったです。衛生的な浴室がなかったのです。プランのおかげで、私たちは温水器を使ってお湯とシャワーを浴びることができるようになりました。コミュニティ全体が、飲料水の管理と衛生を学びました」

Jose, 男性, 37歳, シュアル・コミュニティ, エクアドル, チャイルドの思春期の若者の保護者

応急手当や衛生習慣、栄養、緊急医療を受けるための手順など、予防医療に関する知識を、あらゆる年齢層のコミュニティ住民が身につけたと、3カ国全てのインタビュー回答者が強調した。これは、現地の健康状態の改善に役立つものである。

「応急処置の講習や健康維持のための講習、家族を養う方法を教えてくれ、みんな少しずつ知識を得て、少しずつ向上していきます」

Lionel、男性、70歳、
チャンチャン・ティオカハス・コミュニティ、
エクアドル、コミュニティ・リーダー

コミュニティ住民からのこれらの証言は、二次データ源に見られる傾向を裏付けるものである。バングラデシュとエクアドルでは、子どもの安全な水と衛生設備へのアクセスは、2022年まで大幅に改善した。対照的に、ウガンダのスポンサーシップ実施地では、2010～2022年の間に、子どもの安全な水と衛生設備へのアクセスが劇的に低下し、これが健康に関する調査結果の一部に影響を及ぼしている可能性がある¹⁸。

「保健サービスの訓練で多くのことを学び、今でもそのプロトコルに従っています。999に電話するとどうなるかを学び、両親にも教えました」

Imran、男性、20歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド



空手を通じてジェンダー・ステレオタイプを打ち破ろうとする15歳
© Plan International



エンパワーメント

プラン・インターナショナルのエンパワーメントへの取り組みは、ジェンダー不平等を永続させ、女の子のエンパワーメントを妨げている政策や制度の変容を目指して活動している点で、他の団体とは異なる。その取り組みは、特に女の子に対する直接的な支援と、教育・医療・経済的エンパワーメントを網羅した、全ての子どもエンパワーメントを目指すより広範な提唱活動を組み合わせたものである。

主な調査結果

- エンパワーメントの程度は、バングラデシュのスポンサーシップ実施地では明らかに高く、ウガンダはそれ程は高くなく、エクアドルでは低かった。
- プラン・インターナショナルの活動は、女の子と女性のエンパワーメントを後押ししている。
- 支援者の手紙を受け取ることは、エンパワーメントにより影響を与えた。

18. Secondary data report, pp 7-8

エンパワーメントの測定

この分野の調査では、子どもや思春期の若者がどの程度エンパワーメントされたと感じているかを測定することはほぼない。本調査では、一次データを用いて、スポンサーシップが思春期の若者にエンパワーメントされたという実感をどの程度与えられるか、探った。参加者は、エンパワーメントに関する様々な意見に共感するかを尋ねられた。例えば、他人と対等であると感じる、何か問題があれば行動を起こすことができる、何らかの形で自身を誇らしく感じる、などである¹⁹。質的インタビューでは、エンパワーメントをより間接的に探った。

「私にとって最も大事なことは、自立したことです。自分で決断することを学びました。以前は両親の言うとおりにしていたけど、今は違います」

Divya、女性、19歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

比較地分析

スポンサーシップはエンパワーメントの程度に影響する

バングラデシュとウガンダの2カ国の結果では、スポンサーシップ実施地の思春期の若者は、非実施地の思春期の若者よりもエンパワーメントの程度が高いことが示された。

バングラデシュでは、スポンサーシップ実施地の思春期の若者は、非実施地の思春期の若者と比べ、エンパワーメント指数が1.08ポイント高かった。ウガンダでは、スポンサーシップ実施地の思春期の若者は、非実施地の思春期の若者よりもわずかに強くエンパワーメントされていると感じると報告した。だが、その差はわずか0.27ポイントで、統計的に有意ではない。

エクアドルでは逆の結果となった。非実施地の思春期の若者は、エンパワーメント指数がスポンサーシップ実施地の若者より高かったのである。しかし、その差は0.57ポイントと小さかった。

3カ国の調査参加者のエンパワーメントレベルの平均は、バングラデシュが21.23点、ウガンダが19.68点、エクアドルが18.5点と、比較的類似していた。

深掘り分析

支援者の手紙がエンパワーメントを後押し

深掘り分析の結果によると、支援者からの手紙を受け取ることは、3カ国全てで思春期の若者のエンパワーメントにプラスの影響があった。支援者からの手紙を受け取ることで、思春期の若者の自己価値感が高まる可能性が示唆された。

バングラデシュでは、支援者から手紙を受け取った、チャイルドの思春期の若者は、手紙を受け取らなかった若者よりもエンパワーメントのレベルが1.7ポイント上と、わずかに高いことが報告された。ウガンダでは、手紙を受け取った思春期の若者は、手紙を受け取らなかった若者よりも0.90ポイント高かった。エクアドルでは、手紙を受け取った思春期の若者は、手紙を受け取らなかった若者よりも0.74ポイント高かった。質的な調査結果は、支援者の手紙の効果に関する詳細を示している。

ウガンダやエクアドルでは、プラン・インターナショナルのプログラムへの参加がエンパワーメントのレベルの向上に役立ったことを示す証拠はなかった。しかし、バングラデシュでは、これらのプログラムに参加した場合、1.72ポイント増となることが示された。

ウガンダのスポンサーシップ実施地では、障害のある思春期の若者は、障害のない思春期の若者よりもエンパワーメントされていないと感じると報告した。バングラデシュとエクアドルでは、統計的に有意な差は見られなかった。

スポンサーシップは女の子と女性のエンパワーメントを支援する

ウガンダのスポンサーシップ実施地では、思春期の女の子が男の子よりもエンパワーメントされたと感じると報告し、エンパワーメント指数で平均1.64ポイントより高い得点を示した。この好ましい結果は、プラン・インターナショナルのプログラムが、分析した場所で女性のエンパワーメントに重点を置いていることに起因している可能性がある。バングラデシュとエクアドルでは、量的なジェンダー差は報告されなかった。

エンパワーメント

ウガンダの女の子の方が男の子より

1.64 ポイント 高い



19. この調査では、以下のエンパワーメント指数を用いた。4段階のリッカート尺度(1-強く反対、2-反対、3-賛成、4-強く賛成)を用いた7つの質問に対する回答の集計点: (i)自分はある価値のある人間であり、少なくとも他人と対等であると感じる、(ii)自分には多くの良い資質があると感じる、(iii)自分には誇れるものがあまりないと感じる(逆コード化)、(iv)自分は仲間(例えば、姉妹、友人、同僚など)と対等である、姉妹、友人、同僚など)、(v)学校やコミュニティで何か問題があると思うときは、行動を起こす、(vi)家庭で何か問題があると感じ、それを話したとき、両親は私の話を聞いてくれる、(vii)地元や学校で少なくとも1つのグループやクラブの積極的なメンバーである。調査方法や調査結果の詳細については、research@plan-international.orgまで。

3カ国全てで行われた質的インタビューは、スポンサーシップを通じて女の子と女性がより力を得たと感じる様子を豊かに描き出している。

バングラデシュの女の子は、意思決定、発言、リーダーシップのスキルを身につけ、それが彼女たちの人生をどう変えたかを述べた。Anikaが説明するように、チャイルドになったことで、彼女たちは学校に通い続け、早すぎる強制された結婚(CEFNU)、そしてそれに続く早期妊娠を避ける力を得た:



大麦の種を農地に蒔くユース女性、
エクアドル

© Plan International

「もしプランのスポンサーシップ・プログラムに参加していなかったら、今頃私には子どもが2人いたでしょう。とくに結婚させられていたでしょう。学校にもあまり行かせてもらえなかったでしょう。家族の考え方も変わらなかったでしょう。昔は、女の子を早く結婚させる人びとと同じ考え方でした。私の人生は全く違ったものになっていたでしょう。プランのおかげで、よいことが起こりました。早すぎる結婚がなくなったので、学業を追求することができるようになりました。前は話せなかったです。兄弟が来て、私は列の後ろに座っていました。今は人前でたくさん話すことができます。前は名前を尋ねられたら恥ずかしくて言えませんでした。今は恥ずかしさが軽減しています」

Anika、女性、20歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

バングラデシュにおける女性の経済的エンパワーメントは、プラン・インターナショナルの育児施設への投資により、母親が自らの生計を営むことができるようになり、向上している。

「妻は赤ん坊のために外に出て働くことができなかつたのですが、プランが子どもを預けられる託児所を開設してくれました。これで妻は安心して外で仕事ができます。私たちは基本的なニーズを満たすことができます。私たちは今、支払い能力があります」

Arif、男性、44歳、ダッカ・マツチコロニー、
バングラデシュ、コミュニティ・リーダー

エクアドルのスポンサーシップ実施地では、女性の役割に関する伝統的な規範や考え方が変化してきている。

「プランのおかげで、女性にも男性と同じ価値があると認識しました。現在では既に女性の専門家もいますし、女性も勉強しています。一方、以前は、女性は子どもを産み、動物の世話をするだけで、それ以上の価値はないと言われていました。それ以外の重要性はなかったのです。彼女たちは他のことを求められるとは信じられていなかったし、リーダーシップや権威を引き受ける能力があるとも思われていなかった。今はそれが変わりました」

Iker、男性、55歳、ピンバロ・コミュニティ、
エクアドル、コミュニティ・リーダー

スポンサーシップがスキルと手紙を通じたエンパワーメントを後押し

エンパワーメントに関連して、3カ国全てで、チャイルドの思春期の若者とかつて元チャイルドの思春期の若者が、スポンサーシップのおかげで人生で重要なスキルを身につけたと述べた。プログラムやコミュニティ活動に参加する勇気を養うこと、家族を含む他人の前で発言すること、文章を書いたり分析したりするスキル、他人を率いるスキルなどが、主なスキルとして挙げられた。

「話すこととリーダーシップ。プランによる経験は、私生活、家庭生活、そして仕事にも役立ちました」

Farah、女性、18歳、ダッカ・マツチコロニー、
バングラデシュ、元チャイルド

「前はどうか参加したり話せばいいのかわかりませんでした。今は話すし、参加もします。分析も記述も。物事に参加することにとっても誇りを感じていますし、大人になっても何かに参加することが怖くありません。だから、プランの活動に参加することは、社会的な活動に参加することへの恐れを取り除いてくれるので、大変助かります」

Alexis、男性、年齢不詳、ブルテコ・コミュニティ、エクアドル、チャイルドの思春期の若者

「プラン・インターナショナルは、私たちをラジオに連れて行き、いくつかの番組を担当させてくれ、それが私たちの自信につながりました。学校を卒業した後、私は人びとを動員し、プランがもたらす影響を伝えることができ、リーダーシップを身につけました」

Dembe、女性、22歳、バラウオリ村、ウガンダ、元チャイルド

いくつかの質的インタビューは、特に支援者からの手紙がエンパワーメントにプラスの影響を与えるという量的調査結果を裏付けている。ウガンダの元チャイルドは、スポンサーの手紙によって、支援者に誇りに思ってもらおうと動機づけられ、その結果、自分の人生に対する期待が高まったと話した。

バングラデシュとエクアドルの思春期の若者は、海外に住み、手紙を通じて彼らに関心を示す支援者との関係を築くことについて、温かな気持ちで語っている。

「その関係は、本来あるべき友情のように甘美なものでした。お互いの交流があり、彼は私のことや私の健康状態を知っていて、遠く離れた友人が私のことを尋ねてくれたり、何か悩んでいることがあれば知りたがりたりするのは、本当にいいことだと感じました ...」

Anika、女性、20歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

支援者の手紙を受け取れないことは、力を奪うことになりかねない

支援者から手紙が届くと期待していたのに、何も届かないというのは、精神的な無力感につながりかねない。ウガンダとバングラデシュでは、手紙を積極的に書いたにもかかわらず、一度も受け取ったことがないと言う思春期の若者もいた。支援者と有意義な関係を築いている人びとへの失望、怒り、羨望を表明する者もいた。

「彼との交流は私の人生に影響を与えました。彼の言葉は、成長期や勉強中の私を励ましてくれたからです。私は神をととても愛していたので、支援者は喜んでくれ、私は神学課程と聖書の勉強をし、支援者は私をととても誇りに思ってくれました」

Chris、男性、34歳、カムリ地区、ウガンダ、元チャイルド

「大半の友人は支援者から手紙をもらっていましたが、私は支援者から手紙をもらったことがありません。支持者から手紙が来ないので、手紙に対して何の感情もなかったです。動揺していました。一度だけ、ある風景の絵を支援者に送り、元気ですかと尋ねたことがあります。手紙の返事を期待しました」

Hasan、男性、15歳、ダッカ・マッチコロニー、バングラデシュ、チャイルドの思春期の若者

また、ウガンダでは、スポンサーシップが正式に終了したとたん、手紙が突然途絶えたことに落胆した人もいた。支援者との関係が続いていると報告した元チャイルドはいなかった。この調査結果は、この貴重な関係、そしてそれに伴う恩恵を突然失うことで、チャイルドの思春期の若者が心理的な影響を受ける可能性があることを明らかにしている。



難民居住区で積み木で遊ぶウガンダの子どもたち

© Plan International



子どもの保護

プラン・インターナショナルの子どもの保護に対する取り組みの指針となるのは、コミュニティの関与を伴う子ども中心のプログラムで、他の取り組みとは一線を画している。プラン・インターナショナルは、子どもや大人が子どもの保護の問題を認識し、それに対応するためのスキルを身につけること、そして各介入の効果を維持するための継続的な監視と評価に重点を置いている。

「支援者から連絡が来なくなりました。まだプログラムに参加していた頃のように、支援者がとても恋しいです。支援者との関係は私にとって非常に重要でした」

Nakimera、女性、17歳、カムリ地区、ウガンダ、元チャイルド

主な調査結果

- 3カ国の思春期の若者は、自身を守り、被害を報告する方法について高い意識を持っている。
- 支援者の手紙を受け取った女の子は特に、子どもへの危害を報告する必要性とその場所を知っている可能性が高い。
- 支援者からの手紙やコミュニティ主導の取り組みは、子どもの保護を推進する上で効果的である。

比較地分析

子どもの保護に関する高い意識

子どもの保護に関する思春期の若者の意識は、3カ国で総じて高かった。子どもの保護に関する知識は、思春期の若者が、子どもへの危害は報告されるべきであると理解しているか、また、どこに報告すべきか知っているかという観点から調査された²⁰。



プラン・インターナショナルによって、姉弟2人が家族と再会した
© Plan International

バングラデシュのスポンサーシップ実施地の思春期の若者の

95% が、危害は報告されるべきだと知っている



バングラデシュでは、認識度は非実施地よりスポンサーシップ実施地の方が高いが、いずれも高水準であった。スポンサーシップ実施地では、95%強の思春期の若者が、危害は報告されるべきだと同意または強く同意したのに対し、非実施地では91%であった。

スポンサーシップ実施地のコミュニティの思春期の若者の91%強が、子どもへの危害の報告先を知っていると答えたのに対し、非実施地では82%であった。

本調査で分析対象となったバングラデシュのスポンサーシップ対象コミュニティの状況に着目すべきである。それらの場所での就学率は、非実施地と比べて低い。しかし、このことは思春期の若者が子どもの保護に関する知識を習得する能力に影響を及ぼしていないようである。

ウガンダとエクアドルでは、場所による差は統計的に有意ではなかった。だが、両国の平均はおおむね3ポイント前後と高かった(エクアドル:3.075、ウガンダ:3.25)²¹。

深掘り分析

スポンサーシップと女の子の子どもへの保護に対する意識

スポンサーシップの様々な側面が、子どもの保護に対する女の子の意識に影響を与えているようだ。3カ国のスポンサーシップ実施地の分析によると、支援者の手紙はこの認識を促進するための重要なメカニズムである。3カ国のうち2カ国では、特に女の子がこの仕組みから恩恵を受けている。

20. 子どもの保護意識は、量的調査において、思春期の若者に2つの文言に同意するかどうかを尋ねることで測定された: (i)「子どもが危害を受けた場合、報告すべきである」、(ii)「子どもが危害を受けた場合、どこに報告すればよいか知っている」。回答は点数化された: 1-強く反対、2-反対、3-賛成、4-強く賛成。

21. これらのポイントは、回答の採点に関するものである(脚注19参照)。

ウガンダで支援者の手紙を受け取る女の子

危害の報告先を知っている割合は、男の子より

41% 高い

エクアドルのスポンサーシップ実施地で、支援者の手紙を受け取った女の子は、男の子に比べ、危害について知っており、どこに報告すべきか知っている可能性が31%高かった。エクアドルのプラン・インターナショナルの職員によると、女の子は支援者とのコミュニケーションを通じてこの知識を得ている可能性がある。ウガンダでも同様に、手紙を受け取る女の子は、手紙を受け取る男の子に比べ、危害の報告先を知っている可能性が41%高かった。エクアドルやウガンダとは対照的に、バングラデシュでは女の子と男の子の間に有意な差は見られなかった。

しかし、バングラデシュでの質的インタビュー²²の証言から、プラン・インターナショナルが提供した子どもの保護研修から、女の子がどう恩恵を受けているかが明らかになった。元チャイルドの思春期の女の子であるAnikaは、早すぎる結婚に対する家族の考えが変わるといふ、女の子にとっての保護の恩恵を説明した（早すぎる結婚に関する調査結果を参照）。彼女はまた、これらの活動に参加することで、自身を保護するためのスキルを得たことにも言及した。

「以前は何にでも「はい」と答えていました。「いいえ」と言うのが恥ずかしくて。何が良くて、何がいけないかを教え込まれました。今は「いいえ」と言えます。恥ずかしくなりました。前は、「いいえ」と言ったら相手はどう反応するかを考えていました。今は、自分の安全を最優先しています」

Anika、女性、20歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

障害に関しては、障害のある思春期の若者は、危害を報告する必要性とその場所について知っている可能性が高いことを指摘する証拠もある。バングラデシュでは、危害を報告する場所について、ウガンダでは両方の記述に同意する傾向が強かった。エクアドルの障害のある思春期の若者については、子どもの保護に関して有意な差は見られなかった。

バングラデシュのチャイルドの思春期の若者は、被害を報告する必要性について、非チャイルドの思春期の若者よりも同意する傾向が強かった(0.13ポイント差)。ウガンダとエクアドルでは、チャイルドの思春期の若者と非チャイルドの思春期の若者の間に有意差は見られなかった。

子どもの保護に関するコミュニティ主導の啓発

質的インタビューから、子どもの保護に関して現地の状況を強化している他の2つの手段が浮き彫りになった。それは、スポンサーシップを通じて家族が受けた研修と、プラン・インターナショナルのコミュニティでのサービスへの幅広い関与である。

ウガンダでは、法執行機関への関与や就学支援など、より広範な関与が行われた。ウガンダの思春期の男の子によれば、この2つによって、コミュニティの女の子の保護と将来性が高まったという。

「プラン・インターナショナルが与えた最も大きな変化は、女の子が学校に通うのを支援したことです。プラン・インターナショナルがいなければ、早くに妊娠してしまう女の子もいたでしょう。でもプランが来て以来、女の子が学校に通い続け、自身の身を守ることを教わるようになったのは大きな変化です...。今、もし女の子を妊娠させたら、プランとウガンダ警察は、あなたを逮捕します。それは、あなたが女の子を学校から追放させたからです」

Batte、男性、17歳、ナブウィグル、ウガンダ、元チャイルド

ウガンダの保護者は、子どもの権利に関する研修のおかげで、よい保護者になれたと述べている。「プランが来てから、私たちの目の曇りがとれて、子どもの権利について、また保護者としての責任について学ぶことができました」と、ウガンダのカムリ地区に住む、チャイルドの思春期の若者の保護者であるMartin (男性、45歳)は言う。

これらの記述は、子どもの保護意識とプラン・インターナショナルのプログラムへの参加との間に関連性は見られなかった、ウガンダの定量的な結果の一部とは対照的だった。バングラデシュとエクアドルでは、関連性は報告されなかった。

22. 全ての質的インタビューにおいて、子どもの保護は、特定の質問では扱われなかった。このテーマは、プラン・インターナショナルのエンパワーメント、教育、コミュニティ主導の研修に関する活動について、インタビュー回答者が議論した際に、関連して浮上した。



調査結果の注目点:

早すぎる結婚と 10代の妊娠

質的な調査結果によると、スポンサーシップ活動は、CEFMUや10代の妊娠の防止につながっている。これらの成果は、主に教育やエンパワメントを支援する活動に関する回答と関連して言及されており、子どもの保護に関する調査結果とも交差している。

バングラデシュでは、Divyaが教育支援が女の子の人生にどんな影響を与えるかを説明している。

「プランがやって来てから、私たちの生活は変わりました。以前、姉は勉強することが認められずに、12歳で結婚させられました。姉たちは家に閉じ込められ、どんな活動にも参加できませんでした。一方、私はすべてのサービスを受けることができました。プランがいなかったら、教育や絵を描くといったサービスを受けることができませんでした。もしプランが私たちのコミュニティに来なかったら、私は早くに結婚していたでしょう。でも今は、学校に行ったり、絵を描いたり、ピクニックに行ったり、いろんなイベントに参加できます。彼らがいなければ、不可能だったでしょう」

Divya、女性、18歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

思春期の若者は、就学することの直接的な保護機能を認識している。ウガンダの元チャイルドは、教育が彼らを安全に保つのに役立っていると述べている。

「私の10代は、若すぎるうちに不必要な性的行為に手を染めることなく、安全でした」

参加者16、性別不詳、18歳、ナブウィグル、ウガンダ

バングラデシュのAbdullは、早すぎる結婚と保護者になることが男の子にもたらす結果について、経済的な見通しが悪くなるという観点から説明している。



自宅の外で幼い娘を
連れて19歳の母親、エクアドル
© Plan International

「私の友人の状況は私よりひどかったです。彼は既婚者で、子どももいます。私はできる限り彼らを助けています。彼の生活は私よりひどいです。彼は労働者として働いています」

Abdul、男性、18歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド

プラン・インターナショナルのコミュニティ規模の取り組みが、思春期の若者を早すぎる結婚や早期妊娠から遠ざけている。

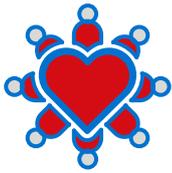
「プランは、私たちが特に早すぎる結婚や10代の妊娠に巻き込まれないよう、本当に尽力してくれました。プランがいなかったら、私は中途退学者で、子どもを何人も抱えていたかもしれません」

Amaru、男性、28歳、カムリ地区、ウガンダ、元チャイルド

Anikaの証言の通り、家族と協力し、各家族に合わせた活動を行うことで、女の子の様々な未来を思い描けるようにする。

「私たちはプランから学び、プランは彼らに教えました。彼らは今、多くを理解しています。私の家族も含め、私たちのコミュニティの保護者は、女の子を早くに結婚させることで起きる問題を理解しました。早すぎる結婚がなくなり、私は教育を受け続けることができます」

Anika、女性、20歳、ジュレイン・レイルウェイ・コロニー、バングラデシュ、元チャイルド



コミュニティの成果

信頼と結束

プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・プログラムは、地元の人びとの参加を促し、疎外された集団をエンパワーメント、コミュニティ主導の開発を促進し、透明性のある監視と評価を通じて説明責任を果たすことで、コミュニティ内の信頼と結束を築くことに貢献している。これらのプログラムは、持続可能な変化と集団的繁栄の基礎を築くものである。

主な調査結果

- スポンサーシップ実施地の信頼度は国によって異なる。
- プラン・インターナショナルによるインフラや社会的スペースへの投資は、コミュニティにおける社会的結束の構築に貢献している。
- コミュニティの前向きな変化として、ジェンダーに基づく暴力(GBV)への対応、協力体制の強化、自主性の向上などが挙げられる。

比較地分析

信頼度に関する調査結果は様々

3カ国の中で、バングラデシュは信頼と結束に関して最も明確な結果を示した。スポンサーシップ実施地の信頼と団結の程度は顕著に高く、16.5点であったのに対し、非実施地では15.5点であった²³。プラン・インターナショナルの長期的な、コミュニティ主導の開発への取り組みが、この結果を導いたと考えられる。

しかし、プラン・インターナショナルが長期的に展開しているもう1つの国、エクアドルでは、異なる結果が出た。同国のスポンサーシップ実施地の住民は、自身のコミュニティで他人を信頼することに関する記述に同意する割合が有意に低かった。非実施地との差は小さく、スポンサーシップ実施地が3.98点であるのに対し、非実施地は3.79点であった。このことは、すべての場所で受け止め方が同じようであることを示している。



コミュニティ集會に参加する若い母親たち、カムリ地区、ウガンダ

© Plan International

エクアドルについて更に分析を進めると、これらのスポンサーシップ実施地の住民は、「コミュニティ内の人は信頼できる」という声明に強く同意する割合が10%低いことがわかった。この所見は強く有意であるという点で興味深いものだが、因果関係はないと考えられる。ウガンダでは、場所による違いは見られなかった。

コミュニティの意識改革が結束力を高める

エクアドルでは、信頼に関する量的な結果とは裏腹に、質的な調査結果においては、支援を受けたコミュニティの住民が、協力・相互性・共同体主義について彼らに教育するプラン・インターナショナルの取り組みについて、肯定的な意見を述べたことが認められた。

「協力的に物事を進めることだけで、... 彼らは変化をもたらしました...。他者を助けることで、私たちは学ぶのです。最低限、親戚や隣人との暮らし方、リーダーとしての役割の果たし方、コミュニティの人との接し方などをね」

Lucia、女性、39歳、エクアドル、チャイルドの思春期の若者の保護者

23. 信頼と結束力を測定するために、5段階のリッカート尺度(1-強く反対、2-反対、3-賛成でも反対でもない、4-賛成、5-強く賛成)を用いた5つの質問に対する回答の点数を集計した。質問は以下の通り: (i)この辺りの住民は喜んで隣人を助ける、(ii)このコミュニティは結束が強い、(iii)このコミュニティの住民は信頼できる、(iv)このコミュニティの住民は一般的に仲が悪い(逆コード化)、(v)このコミュニティの住民は同じ価値観を共有していない(逆コード化)。(RMITIはこの尺度を採用: Sampson, R. J., Raudenbush, S. W. and Earls, F. (1997), 「Neighborhoods and violent crime: A multilevel study of collective efficacy」, Science, 277(5328), 918-924). 質的インタビューでは、プラン・インターナショナルの関与以降のコミュニティの変化について尋ねた。

エクアドルの、チャイルドの思春期の若者の保護者は、女の子や障害のある人を含め、他者を尊重し、早期妊娠を避けるよう子どもに教えるプロジェクトについて言及した。社会的意識の変化は、社会の団結に寄与する。

「子どもは妊娠予防のワークショップを受けました。また、ジェンダー平等についても教えられ、例えば、その子が歩けない、または歩かない...あるいは何か困難がある...といった理由で、自分と違う仲間を差別してはならないこと、仲間同士でいじめがあってはならないこと...も教えられました。それらが彼らの態度に少し反映されるようになりました」

Ana, 女性、47歳、レテン・イチュバンバ教区
セバダス・コミュニティ、エクアドル、
チャイルドの思春期の若者の保護者

ウガンダでは、あるコミュニティ・リーダーが、「コミュニティを感化し、暴力に頼るのではなく、争いを円満に解決し、和解する意識を高める」ことが、コミュニティの結束を高め、女性に対するGBVの減少に役立っていると説明した(Elizabeth, 女性、36歳、キタユンジュワ教区、ウガンダ、コミュニティ・リーダー)。

インフラ投資は「生活を楽しむ」

3カ国全てにおいて、プラン・インターナショナルの地域インフラへの投資は、コミュニティの「生活を楽しむ」と評された。インタビュー回答者は、道路、電化、学校、保健センター、移動式給水システム、トイレの改善を挙げており、これらすべてが社会的結束を高めている。ウガンダでは、幼児教育(ECD)センターが、女性が生計を立てることを可能にし、家計の収入と幸福感を向上させているとして言及された。

「...ECDは女性の世話の負担を軽減し、農牧やその他の事業を含む他の活動に従事することを可能にしました」

Elizabeth, 女性、36歳、キタユンジュワ教区、
ウガンダ、コミュニティ・リーダー

バングラデシュでは、あるコミュニティ・リーダーが、プラン・インターナショナルの介入がどう人びとの行動を喚起しているかを指摘した。元チャイルドの思春期の若者は、植林や廃棄物管理プログラムのようなコミュニティ活動への参加を誇らしげに語った。

「今では、皆、ただ座っているのではなく、様々な人と交流するようになりました。プランや他のNGOの話に耳を傾けることで、知識を得ているのです」

Aarna, 女性、37歳、ダッカ・マツチコロニー、
バングラデシュ、コミュニティ・リーダー



洪水に対する啓発ピラを配る幼い女の子、バングラデシュ
© Plan International



コミュニティの成果

多面的貧困

多面的貧困に対するプラン・インターナショナルの取り組みは、子どもの権利とジェンダー平等に総合的に焦点を当てることで、他とは一線を画している。貧困と教育、医療、生計との接点を認識し、これらに同時に取り組み、意思決定に地元の人びとを積極的に参加させている。その目的は、長期的な社会正義と平等を推進しながら、貧困を軽減することである。

主な調査結果

- バングラデシュでは、貧困レベルはスポンサーシップ実施地の方が非実施地よりも高かった。
- スポンサーシップ・プログラムは、3カ国の貧困を軽減するのに役立っている。
- プロジェクト単位の研修で収入を得る機会が広がる

比較地分析

バングラデシュのスポンサーシップ実施地は貧しい

3カ国全てにおいて、学校教育レベル、使用する調理用燃料の種類、衛生設備や清潔な水へのアクセスなどの指標について、スポンサーシップ実施地と非実施地で多次元の貧困の測定を行った。

バングラデシュでは、スポンサーシップ実施地の貧困率は非実施地よりもはるかに高く、29%に対し48%であった。学校への出席率(低い)、調理用燃料(薪の使用)、衛生設備(トイレは共同使用)の点で、スポンサーシップ実施地のコミュニティは非実施地よりも困窮度が高かった。

エクアドルでは、スポンサーシップ実施地の貧困率は非実施地とほぼ同じで、23%に対し24%であった。

同様に、ウガンダでは、スポンサーシップ実施地では77%、非実施地では67%であり、実施地のタイプによる多次元の貧困の統計的有意差は見られなかった。

スポンサーシップと収入増加についてのインタビュー

3カ国全てでインタビュー回答者によると、スポンサーシップ・プログラムは家族の収入を向上させた。信用供与のような間接的な資金援助による場合もあれば、まれにスポンサーシップに関連した教育資金援助によって、家計の収入を他の目的に充てられるようになった例もある。また、プログラムにより、収入創出スキルを身につけることができたこともある。

バングラデシュでは、チャイルドの子どもが、教材や栄養価の高い食事のための信用供与を受けており、スポンサーシップ実施地が継続的な開発の取り組みの恩恵を受けている。COVID-19パンデミックの際には、収入の減少に対処するために現金給付を受けた。このような多様な支援により、家族は医療費、衣類、住居費など、その他の費用を賄えるようになった。

「私の家庭はお金がなく、娘の教育費を捻出することができませんでした。今は、このスポンサーシップのおかげで娘に教育を受けさせることが楽になりました。今ではおいしい食事を食べています。娘の教育費に使われていたお金は、今では家計の他の分野に使われていて、また、これでいくらか貯金もできるようになりました。娘の教育はこのスポンサーシップによって続けられているので、私はこのお金を他の分野に投資して、さらに収入を得ることができ、財産を増やして農地を購入することもできます」

Fatima、女性、45歳、
ダッカ・マッチコロニー、バングラデシュ、
チャイルドの思春期の若者の保護者

ウガンダのインタビュー回答者は、スポンサーシップの援助により、家計の収入を他の必要なことに充てられると説明した。コミュニティの多くの人は農牧に依存しているため、プラン・インターナショナルは畜産に関するプロジェクトや研修を実施し、家計に家畜を提供した。

エクアドルでも同様で、思春期の若者とその家族は、私的使用や収入のために手工芸を習っていると話していた。魚の養殖や、モルモット、牛、羊の飼育などの畜産も教わった。家族は農作業を確立するために牧畜を受け取った。

「プランのワークショップのおかげで、私を含むコミュニティ住民は養豚を学ぶことができ、そのおかげで私たちの大半は養豚をビジネスとして行う気になり、私もその恩恵を受けています」

Samuel、男性、38歳、カムリ地区、ウガンダ、
チャイルドの思春期の若者の保護者



地方に住む農民が自身の畑を歩いている、ウガンダ

©Plan International



調査結果の注目点:

地方と都市の開発成果

主な調査結果

- 場所の違いがチャイルドの子どもの開発成果に与える影響は、指標や調査方法によって異なる。
- スポンサーシップ・プログラムが開発成果に与える影響に見られる微妙な違いは、都市と地方の差だけではないのかもしれない。
- チャイルドの子どもの将来を左右するのは、地理的条件よりも他の要因の方が重要かもしれない。

スポンサーシップの影響が、地方と都市とでどう異なるかも、この調査で考慮された点である。一次データの収集場所が限られていたため、ウガンダでは、地方と都市周辺部という場所の違いによる違いを観察することしかできなかった。二次データを用いた調査では、地方と都市をより比較することができた。プラン・インターナショナルのチャイルド・スポンサーシップ・データベースを使い、2008～2022年の間、ウガンダとバングラデシュの都市と地方のスポンサーシップ実施地にいるチャイルドの子どもに関する調査結果を入手した。

二次データ比較の概要

バングラデシュ



教育 » 出席率は過去8年間上昇を続けており、都市と地方の差は大幅に縮まっている。地方の中等学校への出席率はほぼ100%に達しているのに対し、都市では84%にとどまっている。



健康 » 地方と都市における子どもの罹患率の差は、徐々に縮まった。2011年までには、両地域の子どもの罹患率は5%前後まで低下する傾向にあった。



安全な水へのアクセス » 2015年以降、都市と地方のチャイルドの子どもが安全な水にほぼ普遍的にアクセスできるようになった。



衛生 » 2008年では、チャイルドの子どもの衛生設備へのアクセスには大きな差があり、地方では90%のアクセスが報告されていたが、都市ではわずか20%であった。2014年には、90%という同水準に達した。最近では、両地とも99%のアクセスが報告されている。



エンパワーメント » 都市に比べ、地方の水準は依然やや高い。

二次データ比較の概要(続き)

ウガンダ



教育 » 2008年以降、都市でも地方でも、初等・中等学校への出席率はチャイルドの子どもにほぼ普遍的になっている。だが、2012～2017年の間に地域間の差が拡大し、地方では出席率が大幅に低下した。最近では、地方の方が都市よりも中等学校への出席率が高くなっている。



健康 » 都市のチャイルドの子どもが病気の罹患を報告する割合は、2008年の20%から2022年には5%へと着実に減少している。地方では、2010年の2%が2014年には82%に急増し、2022年に20%に減少した。



安全な水へのアクセス » 地方の子どもが安全な水にアクセスできる率は、2008年の90%が2022年には25%に低下する。都市でも80%から2022年には35%に低下している。



衛生 » 安全な衛生設備へのアクセスは難しくなっており、地方と都市では大きな差がある。地方のアクセス率は2008年の80%が2022年には18%に低下し、都市のアクセス率は64%が50%に低下した。



エンパワーメント » 2018～2022年の間に、都市の子ども(21%)の方が地方(20%)よりも高い水準となった。

一般的に、バングラデシュの地方は、都市よりも状況がよいようである。対照的に、ウガンダは地方で継続的に課題に直面しており、エンパワーメント、健康、衛生の成果において差がある。

大麦粉生産プロジェクトに参加するユース女性の一人、エケアドル
©Plan International

結論

プラン・インターナショナルの衛生キットを手に笑顔を見せる女の子、バングラデシュ

©Plan International



本調査は、プラン・スポンサーシップが子どもとそのコミュニティの双方に与える開発成果への影響をより深く理解しようと試みるプラン・インターナショナルの活動に、貴重な貢献をした。また、プラン・インターナショナルは、これらの成果を測定する今後の方法を確定することに近づいた。

スポンサーシップと成果:その詳細

プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・プログラムと介入は、子どもとコミュニティの開発成果を上げること成功していることが、この調査で明らかになった。それは、3カ国間でばらつきがある。しかし、スポンサーシップの成果は、以下のように確認できる。

- **スポンサーシップ・プログラムへの参加**は、チャイルドの思春期の若者、非チャイルドの思春期の若者、世帯、コミュニティ住民のどれであっても、開発成果の向上に貢献する。教育・健康・子どもの保護・貧困は、プラン・インターナショナルのプログラムを通じて改善された分野である。
- **支援者の手紙**は、それを受け取ったりやり取りしたりする、チャイルドの思春期の若者に、発達上の成果という点で明らかに有益である。これは、教育・健康・エンパワーメント・子どもの保護の成果において顕著である。
- **スポンサーシップに関連した投資や間接的な資金援助**は、コミュニティレベルであれ世帯レベルであれ、健康や教育の成果を改善し、貧困を改善するために直接的、間接的に働いている。インフラ投資には、より良い衛生設備や清潔な水、保健関連施設、学校の再建などが含まれる。世帯は、他の基本的なニーズのために収入を使えるようにする教育支援や、収入創出プログラムや支援を通じて支援されている。
- **スポンサーシップによる介入を通じて、成果におけるジェンダー格差を縮める**。この取り組みは、女子教育・健康特に月経衛生管理・子どもの保護特にCEFMUの予防・女性の経済的エンパワーメントを含むエンパワーメントの成果向上において見られる。

コミュニティ集会に参加した若い母親たち、
カムリ地区、ウガンダ
©Plan International



提言

以下の提言は、RMITの調査員が提示したものを検討し、プラン・インターナショナルの職員が策定したものである。これらの提言は、開発セクターやプラン・インターナショナルの内部で、スポンサーシップの介入による成果を一層高めるための実践的な変化をもたらすものである。

これらの調査結果を考慮し、開発セクター全体におけるスポンサーシップ・プログラムの成果を高めるために、以下の提言を提案する。この提言は、この種のプログラムに関わる全ての組織に提供される。

包摂

プラン・スポンサーシップの取り組みとスキームは、セクター全体にわたって包摂性の原則に基づくべきであり、ジェンダー、障害、民族性、年齢を含むがこれに限定されない、あらゆる多様性を持つ子どもの交差するニーズに留意すべきである。

プラン・インターナショナルの行動ポイント

職員の能力を高め、障害のあるチャイルドの子どものデータを可視化する努力をし、障害のあるチャイルドの子どもの成果を向上させる。Next Genスポンサーシップ構想の一環として、反人種主義・反植民地主義の原則とアプローチを組織全体に展開する努力を継続する。



プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・プログラムにより、姉よりも長く学校に通うことができています、16歳の女の子、バングラデシュ

©Plan International

Next Genスポンサーシップ

スポンサーシップは、プラン・インターナショナルの中核をなし、私たちが女の子やユースに支援の手を差し伸べ、影響を与えるための重要な要素だ。世界が変化し続ける中、2億人の女の子に支援の手を差し伸べるという私たちの野望を達成するために、スポンサーシップ活動の考え方や実施方法を見直す必要があることは明らかである。

Next Genスポンサーシップは、プランのスポンサーシップを刷新するため、2024年に開始された。これは、プランがこれまで培ってきた最高のものを維持し、新たな方法で新たな支援者に訴えるために、それを発展・拡大させるものである。スポンサーシップ・スキームを一新することで、資金調達の新たな道を模索し、最前線の活動をより効率的にし、世界中の女の子やユースにより大きな影響を与えることができる。

教育

スポンサーシップ実施団体は、子どもの教育に対する政府の支援や、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育への資金援助、また女の子の健康教育、特に月経衛生と栄養に関連した教育の改善努力に対する提唱活動を強化すべきである。

プラン・インターナショナルの行動ポイント

プログラム部門や働きかけ部門と緊密に協力し、**教育**に関する政府の提携関係を改善し、プログラムにおいて月経衛生と栄養教育に取り組む方法を模索する。

持続可能性

団体は、コミュニティのプラン・スポンサーシップ・プログラムへの依存を減らすために、地元政府やコミュニティとの提携関係を強化するなど、スポンサーシップやプログラムの取り組みを持続可能なものにすることに重点を置くべきである。

プラン・インターナショナルの行動ポイント

地方自治体との連携を強化し、プランの「質に影響を与えるプログラムに関するグローバル方針」に合致させることにより、スポンサーシップ・プログラムの**持続可能性**を確保するための取り組みを強化する。

調査

プラン・スポンサーシップ実施団体は、プラン・スポンサーシップ・プログラムが発達成果に与える影響を継続的に評価し、主要な発達成果に対するプラン・スポンサーシップの因果関係を証明するために、無作為化比較試験(RCT)の可能性を探るべきである。

プラン・インターナショナルの行動ポイント

人生を変えよう スポンサーシップ調査シリーズの一環として**学びの旅**を続け、影響を実証し、子どもとそのコミュニティの成果を向上させる。



大学で建築を学んだ最初の先住民女性の一人(21歳)、エクアドル
©Plan International

国別の提言

バングラデシュ

総じて、特に援助団体が存在しない地域では、より多くの思春期の若者が学校に通うよう奨励すべきである。

団体は、スポンサーシップ終了後も、家族が子どもの教育を継続できるように支援すべきである。

スポンサーシップ・プログラムの一部であるコミュニティ主導の取り組みは、地域の提携関係に重点を置くべきである。

エクアドル

ジェンダーがどう影響されるかに焦点を当て、子どもの危害に対する理解や、危害を報告する場所についての理解に働きかける介入策を開発すべきである。

プログラムは、コミュニティ内の信頼と結束を築くような介入を増やすべきである。

ウガンダ

プログラムには、チャイルドの子どもとその家族が自給自足できるような機会(家畜の飼育訓練など)を増やすような介入策を含めるべきである。

介入は、チャイルドの子どものエンパワメントを促進し、コミュニティ開発の取り組みへの積極的な参加を促すものでなければならない。

村の洪水に囲まれた母子、バングラデシュ
©Plan International

付録： 調査方法

プラン・インターナショナルは、プラン・スポンサーシップ・スキームが開発の成果に与える影響を理解する最善の方法を、何年にもわたり模索してきた。本調査は、その広範な試みの一環である。2022年6月に委託され、2023年に終了した。

この調査は、プラン・インターナショナルのプラン・スポンサーシップ・グローバル・データベースの量的調査から得られた知見を提示した2019年「人生を変えよう」報告書に基づいている。2019年の報告書から生じた提言と結論は、特に思春期の若者の成果と改善された調査方法に焦点を当て、本調査の目的を形成するのに役立った。

2019年「人生を変えよう」報告書では、プラン・インターナショナルが活動する50カ国のスポンサーシップ・データを幅広く調査したが、本調査では国レベルの分析を用いてスポンサーシップの影響力について理解を深めようとした。

特定の要件に従い、バングラデシュ、エクアドル、ウガンダが対象となった：

- アジア、南米、アフリカといった異なる大陸にまたがるこれらの国々は、地理、所得水準、宗教、ジェンダー平等の点で異なる。
- 現地のプラン・インターナショナルの職員が、快く調査に協力してくれた。
- データ収集に携わる全ての職員の安全が保証できた。
- プラン・インターナショナルの介入でできた場所や構造物をジオロケーションすることができる。
- 各国におけるプラン・インターナショナルのプログラムは、長年にわたり包括的なものである。
- 信頼できる非実施地は、プラン・インターナショナルの実施地の近くにあり、似たような特徴を共有している可能性がある。
- 各国の二次データ(プラン・インターナショナルのスポンサーシップ・データベースと全国代表世帯調査)は容易に入手できた。

調査の構成要素

この調査には3つの要素があり、スポンサーシップが子どもの発達の成果に与える影響について調査を進める最適な方法を順次確立してきた。

スナップショット分析

プラン・インターナショナルのチャイルド・スポンサーシップ・グローバル・データベースは、後続の国別調査を可能にする十分なデータを持つ国を決定するために使用された。これは、スポンサーシップ・データベースの「スナップショット」分析を実施し、3つの重点対象国におけるチャイルドの女の子と男の子の数、およびチャイルドの子どもに関連する主要な開発指標の概要を示すものである。これらの指標には、出席率、改善された水と衛生設備へのアクセス、出生登録、過去12ヶ月にかかった病気などが含まれる。データはジェンダー、年齢、年別に集計された。この分析では、COVID-19が世界中のチャイルドの子どもに及ぼす影響に関するデータも考慮した。

二次データ分析

調査の第二の要素は、バングラデシュ、エクアドル、ウガンダにおけるプラン・インターナショナルの介入に関連する開発成果を評価するために、二次データ源を調べることであった。

2つの手法が用いられた：

第一の手法:プラン・インターナショナルのグローバル・スポンサーシップ・データの分析で、チャイルドの子どもと、まだ非チャイルドの子どもの開発成果に焦点を当てている。国およびプロジェクト単位で、さまざまな開発指標(出席率、健康状態、水と衛生設備へのアクセス、エンパワーメント)を調査した。経時的な傾向を考慮し、年齢、ジェンダー、場所(地方/都市)、チャイルド/非チャイルド別に集計している。

第二の手法:プラン・インターナショナルが活動している地域の個人や世帯と、そうでない地域の個人や世帯の平均的な開発成果の比較分析。プラン・インターナショナルが活動するコミュニティ内の子どもや世帯と、そうでないコミュニティ内の子どもや世帯;男の子と女の子;都市と地方といったグループにおいて、開発成果が異なるかを調査するために、二次データソースが使用される。縦断的データの情報源は、International Food Policy Research InstituteのBangladesh Integrated Household Survey、Ecuadorian Census data (1962-2010)、Uganda National Panel Survey (2009/10-2018/2019)である。

一次データの収集と分析

3つ目の要素は、バングラデシュ、エクアドル、ウガンダの思春期の若者²⁴、保護者、コミュニティ・リーダーから収集した一次データであり、混合法を用いた。その目的は、プラン・インターナショナルが活動するコミュニティ(「実施地」)と、そうでない類似のコミュニティ(「非実施地」)における成果を、各国毎に比較することであった。一次データ分析では次に、各国の実施地内を掘り下げ、スポンサーシップが、様々な思春期の若者の開発成果にどう影響しているかを詳しく調べた。また、コミュニティ全体への潜在的な影響についても考察している。

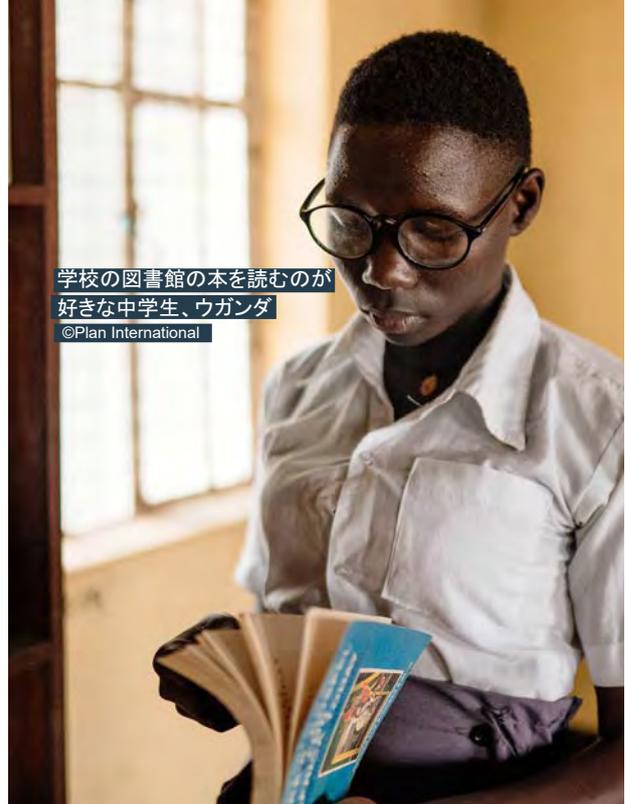
量的データ: 調査分析

量的一次データは、3カ国で思春期の若者と保護者を対象とした調査を通じて収集された。各国で、約400の調査が実施地で、200の調査が非実施地で実施された。世帯と思春期の若者は、現地のプラン・インターナショナルの職員から提供されたコミュニティの地図を使って無作為に選ばれた。思春期の若者に対する調査では、就学、規則的な出席、自己申告による健康状態、子どもの保護に関する知識、エンパワメントについて、質問ベースの採点指標を用いて調査した。家計調査では、コミュニティの結束と信頼、そして多面的貧困指数を用いた貧困について調査した。

量的方法では、2種類の標準的な検査を用いる。

- **t検定**(訳注: 2つのサンプルの平均値の差が統計的に意味があるかどうかを判断する分析手法): 平均差を比較する。これは、プラン・インターナショナルが活動するコミュニティとそうでないコミュニティの成果を比較するために使用された。
- **回帰分析**(訳注: 結果となる数値と要因となる数値の関係を調べて、それぞれの関係を明らかにする統計的手法): 平均値に影響を与える可能性のある要因を考慮に入れて、グループ間の平均値を比較する。これは、実施地で暮らす思春期の若者間の成果の差異を調べるために使用された。影響を及ぼす要因として考慮されたのは、ジェンダー、プラン・インターナショナルのプログラムへの参加、チャイルド/非チャイルド、支援者とのやり取りであった。

分析結果は、**統計的に有意であることもあれば、そうでないこともある**。統計的有意性とは、調査者が分析された変数間の関係の方向性を確信することである。



学校の図書館の本を読むのが好きな中学生、ウガンダ
©Plan International

統計的に有意な結果は、報告・解釈・議論される。変数間の関係が統計的に有意でない場合、これらの結果は、関係する他の変数の影響を反映しているか、または十分な大きさのサンプルがないために生じる可能性があるため、解釈されない。

質的データ: 参加者へのインタビュー

3カ国にまたがる実施地で、合計145人の参加者にインタビューが行われた。コミュニティ・リーダー、保護者、チャイルドの思春期の若者、非チャイルドの思春期の若者、そして現在は成人している元チャイルドの思春期の若者の、全員がインタビューに応じた²⁵。

インタビューに参加したのは、全員実施地の人で、量的調査の参加者とは異なる集団であった。インタビューでは、学校教育、健康状態、個人的な抱負、コミュニティ、家庭環境について質問した。また、質的方法では、3つの調査項目に関する洞察を得ることを目的とした。

- プラン・スポンサーシップは、チャイルドの子どもの人生に永続的な影響を与えるのか
- 元チャイルドは、プラン・スポンサーシップをどう位置づけているのだろうか
- 彼らの人生において、支援者はどんな役割を果たしたか(もしあれば)

質的インタビューは、ここに掲載したすべての引用の出典である。インタビュー回答者の身元を保護するため、実名は使用していない。

24. 倫理的配慮から、一次データ調査には思春期の若者(12~17歳)のみが参加した。二次データでは、より若い子どもが対象となった。

25. 注: エクアドルのコミュニティでは元チャイルドを見つけることができなかった。

学校の加速学習でテスト用紙を書き終えた女の子、ウガンダ

©Plan International



調査結果の制限事項

二次データ分析

この種の分析には、各国のデータベースではグループ間の公平な比較ができないという重大な制限があった。また、入手可能なデータでは、プラン・インターナショナルのコミュニティでの活動に関する洞察や細かい差異を十分に把握することができなかった。

一次データ分析

この調査では、実施地と非実施地の結果を比較することで、介入群と非介入群を設定した。だが、データの収集は各場所で1回のみ行われ、プラン・インターナショナルの介入前の観察は行われなかった。

比較したグループ間の差異は可能な限り最小限にとどめたが、グループが同一であるとは言い切れない。従って、プラン・インターナショナルの活動が、観察された有意な変化の唯一の原因であると仮定することはできない。よって、調査結果は因果関係というよりは相関関係として解釈される。

今後の調査

プラン・インターナショナルの活動の有効性を判断する最も信頼できる方法は、RCTであろう。RCTでは、介入群の参加者を介入前後に観察し、介入を行わない非介入群の同様の参加者と比較する。この調査から得られた知見は、スポンサーシップが今日の世界に適合するよう、プランの絶え間ない進化に寄与することだろう。

謝辞

年1回のインタビューに参加してくれた、現在および過去のチャイルドの子どもとその家族に感謝する、このインタビューがなければ、この調査は実現不可能であった。また、プラン・インターナショナルの職員とボランティアがインタビューを実施し、補足的なアンケートデータを収集することで、本調査を更に充実したものにしてくれたことにも心から感謝する。

本調査の遂行にあたり、プラン・インターナショナル・ドイツとプラン・インターナショナルのアーバン・ハブの多大な財政支援に感謝する。

全調査の著者であるRMITのSimon Feeny教授、Alberto Posso教授、Sefa Awaworyi Churchill博士、メルボルン・ビジネススクールのSamuelson Appau准教授(マーケティング)、プラン・インターナショナルのKarin Diaconu博士、Martha Lucia Borrás Guevara博士に感謝する。

この凝縮されたスポンサーシップ調査報告書は、Anna Brownによって書かれたもので、3つの調査要素から得られた知見を要約したものである。

Karin Diaconu博士とMartha Lucia Borrás Guevara博士は、プラン・インターナショナル・グローバル・ハブの調査マネージャーとして、Lucia Rost博士(プラン・インターナショナル・グローバル・ハブの調査責任者)、Jacqueline Gallinetti博士(プラン・インターナショナル・グローバル・ハブのMERL所長)、Isobel Fergus(シニア・リサーチ・マネージャー)の支援を受けながら、この調査を管理した。

凝縮されたスポンサーシップ調査報告書に対してフィードバックや意見を提供してくれたプラン・インターナショナルの同僚に感謝する: Frank Schaeffiger - プラン・インターナショナル・ドイツ スポンサーシップ・マネージャー、Danny Plunkett - プラン・インターナショナル・グローバル・ハブ コンテンツ・クリエイティブ責任者、Magdalena Bastidas - スポンサーシップ・ディレクター、Kathleen Sherwin - 最高戦略・エンゲージメント責任者、Jennifer Delgado - スポンサーシップ開発プロジェクト・マネージャー、Ming Viado - スポンサーシップ・オペレーション責任者、Dana Kabbani - プラン・インターナショナル・ドイツ マーケティング責任者; Louise Meincke - アーバン・ハブのグローバル・リード、Marianne Sondergaard - スポンサーシップ商品開発責任者、Carla Jones - コミュニケーション・ディレクター、Morten Lynge - アーバン・インパクト・ドキュメンテーション・リサーチ責任者、Damien Queally - グローバル・プログラム&オペレーション・ディレクター、Juliana Pierossi - プラン・スポンサーシップ活性化担当グローバル・ポートフォリオ・ディレクター。

また、このプロジェクトに直接関わったバングラデシュ、エクアドル、ウガンダの国別事務所の全員に感謝する。

プラン・インターナショナル・エクアドル: Gladys Rivera - プログラム・ユニット・マネージャー、Marcos Nunez - スポンサーシップ・ナショナル・リーダー、Patricio Tobar - 監視・評価マネージャー。

プラン・インターナショナル・ウガンダ: Judith Nakanda - スポンサーシップ・マネージャー

プラン・インターナショナル・バングラデシュ: Nova Schams - スポンサーシップ・コミュニケーション部長、Tariq Ul Hassan Khan - MERLおよびプログラム部長。



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と世界中の女の子の平等を推進するため、日々取り組みを続けています。私たちは、すべての子どもに力と可能性があると思っていますが、現実には貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されていることも少なくありません。そして、その影響を最も受けているのは女の子たちです。

独立した開発・人道団体として、プラン・インターナショナルは、子ども、思春期、ユース、支援者、パートナーとともに、女の子と弱い立場に置かれた子どもたちが直面している課題の根底にある原因に取り組んでいます。生まれてから大人になるまで、子どもたちの権利を守り、彼らが自らの力で危機や逆境に備え、対応できるよう支援するため、私たちはネットワークと知見を活かして、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進しています。

85年以上にわたり、子どもたちのために共に取り組んできたパートナーと協力の下、私たちは世界80カ国以上で活動を続けています。

誰もが平等な世界の実現にむけて、歩みを止めずに進んでいきます。

Plan International

International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

T +44 (0) 1483 755155

F +44 (0) 1483 756505

E info@plan-international.org

plan-international.org

[facebook.com/planinternational](https://www.facebook.com/planinternational)

twitter.com/planglobal

[instagram.com/planinternational](https://www.instagram.com/planinternational)

[linkedin.com/company/plan-international](https://www.linkedin.com/company/plan-international)

[youtube.com/user/planinternationaltv](https://www.youtube.com/user/planinternationaltv)

Design: Out of the Blue Creative Communication
Solutions – www.outoftheblue.co.za

Published in 2024. Text © Plan International